

1.マイワシ漁獲状況概要

1月のマイワシの水揚量は前年の1.4倍であった。久慈から石巻港における主要7港のマイワシの1月の漁獲量は3,786トンで前年同期(5,117トン)の74%であった(表1)。小名浜から銚子における主要4港のマイワシ水揚量は12,119トンで前年同期(6,074トン)の2倍であった(表2)。

表1 三陸海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2019年1月 (トン)	2018年1月 (トン)	前年比
久慈	6	455	0.01
宮古	—	79	
釜石	451	110	4.10
大船渡	887	958	0.93
気仙沼	180	28	6.43
女川	963	677	1.42
石巻	1,299	2,810	0.46
合計	3,786	5,117	0.74

(出典：おさかなひろば)

表2 常磐海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2019年1月 (トン)	2018年1月 (トン)	前年比
小名浜	241	64	3.77
大津(茨城)	103	102	1.01
波崎	1,283	945	1.36
銚子	10,492	4,963	2.11
合計	12,119	6,074	2.00

(出典：おさかなひろば)

2.マイワシの体長組成

金華山で今年1月下旬に定置網によって水揚げされたマイワシの体長組成は12~14cm(1歳魚、2018年級群)が主体で、16~17cm(2歳魚 2017年級群)もみられた。前年同期に定置網で水揚げされたマイワシの体長組成は13~14cm(1歳魚、2017年級群)が主体であった(図1)。日立沖で今年1月上旬にまき網によって水揚げされたマイワシの体長組成は18~21cm(3歳魚、2016年級群)が主体であった。前年同期にまき網によって水揚げされたマイワシの体長組成は18~21cm(3歳魚、2015年級群)が主体であった(図2)。両海域とも水揚げ物の体長組成は前年同期と違いは見られなかった。マイワシ漁獲状況概要に記述した通り、常磐沖の水揚量が前年同期よりも多かったが、これは資源量の回復を反映したものと考えられる。

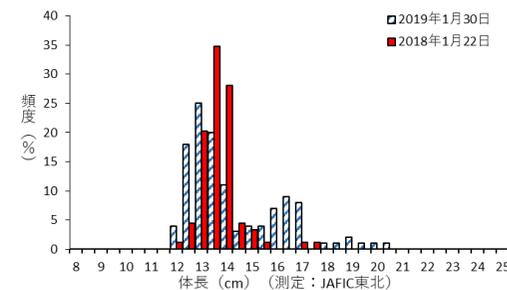


図1 1月下旬の金華山沖における定置網水揚げ物 体長組成の前年比較

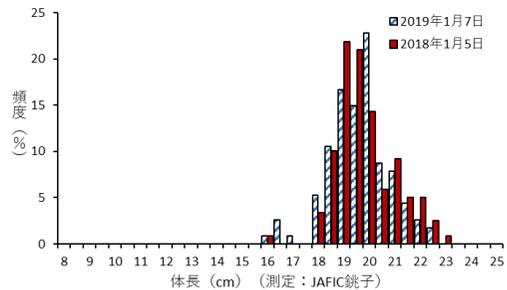
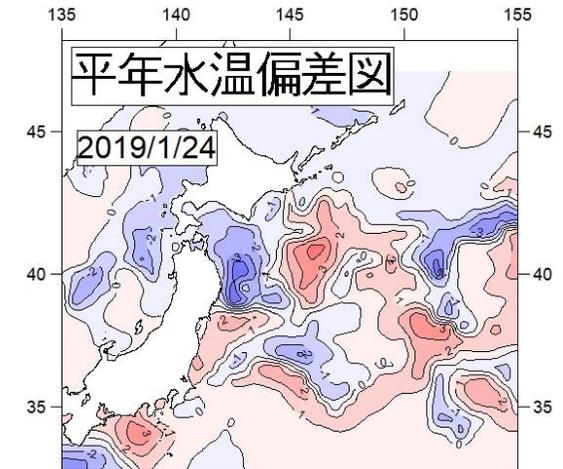


図2 1月上旬の日立沖におけるまき網水揚げ物 体長組成の前年比較

3.海況の特徴



(青色部分は前年よりもマイナス、赤色部分はプラス)

図3 1月24日における 東北沖の表面水温前年偏差図

三陸北部沿岸は平年よりも2~3℃低く、三陸南部~常磐沿岸は1~2℃高かった。12月から引き続き、東北沖からの魚群の南下を促す海況であったと考えられる。

4.今後の予測

1~2歳魚のマイワシは産卵期に入るため、さらに南下すると考えられる。東北沖にいた魚群はさらに南下するため、東北沖での漁獲量は減少する。常磐沖では1~2歳魚が中心に漁獲されると考えられる。

(漁海況部)